

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		3/11~3/18	3/18~3/25	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.038	0.078
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.110	0.110
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.140	0.028
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.031	0.065
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.150	0.036
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.250	0.044
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	0.021	不検出
		セシウム137	0.260	0.075
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.073	0.056

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		3/11~3/18	3/18~3/25	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.200	0.035
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.036	不検出

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己 京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

第130回目
大気浮遊じん放射能測定結果の解説
(2020年3月11日~2020年3月25日)

今回、大気中の浮遊じんに含まれる放射性物質濃度は、セシウム137が平均0.09mBq/m³と極めて低い濃度で健康影響の心配はありません。さて、新型コロナウイルスの感染は世界中で広がり続けています。ウイルスの感染とは、咳などにより空気中に放出されたウイルスを含む微粒子を吸入することで起こり、吸入されたウイルスは感染者の体内で増加し、再び空気中に放出されて連鎖的に伝染します。一方、原発事故当時、放射性物質が伝染すると心配する人が居りましたが、放射性物質は体内で増えることもなく、連鎖的に伝染することはありません。